



# 図書館だより



2009年冬休み直前の本日、「読書週間特別企画・最終号」をお届けします。今回の読書週間企画では、45人の先生方に48冊の良書を紹介して頂きました。「読んでみたい!」と感じた本はありましたか? たった1冊の本があなたの人生を変えることだってあります。そんな本に今後たくさん出会えますように・・・。

小室 幸久

『三国志 (全60巻)』 横山 光輝著  
(希望コミックス出版)

問題 次の言葉を説明せよ。

- 桃園の誓い
- 赤兎馬
- 三顧の礼
- 黄忠の矢
- 背水の陣
- 石兵八陣
- 空城計
- 馬謖を斬る



本校図書館にも『三国志』があります。  
ぜひ読んでみて下さい。

西山 光江

『君と一緒に生きよう』 森 絵都著 (毎日新聞社)

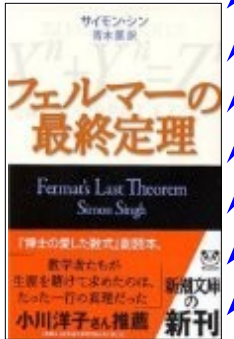


棄てられたり虐待などで傷ついた犬と、犬たちの保護活動をしているボランティアの現状を綴ったノンフィクション。用無しとばかり何発もの散弾を撃ち込まれた猟犬、劣悪な環境で飼われていたブリーダー犬など。彼らのあまりの不幸には、愛犬家でなくともつい涙...、かも。

武井 克朗

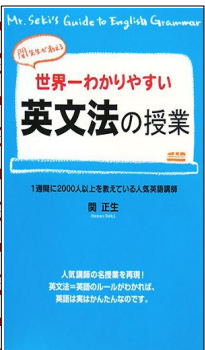
『フェルマーの最終定理』 サイモン・シン著 (新潮社)

360年間、誰も証明できなかった、フェルマーの最終定理が、つい最近になって証明されました。この本にはフェルマーの最終定理が証明されるまでのいきさつが書かれています。数学の話ですが、あまり難しいことは書かれていません。数学が苦手な人も、得意な人も楽しめる本だと思います。数学が苦手な私も、楽しめました。



福地 雄太

『世界一わかりやすい英文法の授業』



関 正生著 (中経出版)  
英語が好きな生徒や未来の受験生には是非読んで欲しい1冊です。これを読めば授業とは違った英文法の不思議を楽しく発見することができます! 結婚式でのフレーズから学ぶ助動詞willの本当の意味とは? 実はとんでもなくロマンチックな「もし...」を表す仮定法って?

コトバの仕組みが大好きな私のオススメの1冊です。

鈴木 信乃

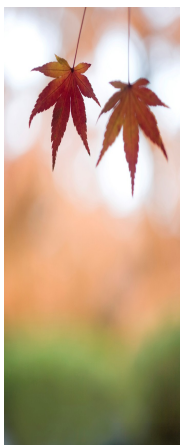
『卵の緒』 瀬尾 まいこ著

(マガジンハウス)

自分のことを捨て子だと確信する小学生・育生と、おちゃめなお母さんの物語。



“血のつながりではなくもっと深いところで愛している”と子どもに伝えるお母さんの姿がすごく素敵。短編集なので簡単に読めて、読んだ後ほんわりと幸せになれる作品です。



永井 一哉

『思考の整理学』 外山 滋比古著 (筑摩書房)

電車に乗っていると、「人間観察をしてみよう」あなたにお勧め。どこからでも気ままに読めて、対話感覚で、ものの考え方を学べます。特に、「忘れる努力」は必読。また本書は、手書きポップ「もっと若いときに読んでいけば...」から、ミリオンセラーになったことで有名。この秋、あなたも手書きポップ作りに挑戦してみてください。



池田 由里子

『風が強く吹いている』 三浦 しをん著 (新潮社)



先日、体育的行事にて陸上部朝比奈君の美しい“走り”を見てこの作品を思い出し、再度読み返しました。作品内容は、走ることをあきらめかけていた清瀬灰二と蔵原走が出会い、陸上とはかけ離れた大学の寮生10人で箱根駅伝に挑むという青春小説です。ラストの駅伝の場面では、10人それぞれの“走ること”への思いに、ぐっ・・・ときてしまうこと間違いなし

素敵な本を紹介して下さった先生方、本当に有難うございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

by.編集委員